

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 7 月 16 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/16 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	29.6	107.3 kPa abs	A系： 0.15 vol%
		給水系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.13 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m <sup>3</sup> /h	41.7	7.75 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.6 m <sup>3</sup> /h	39.9	0.23 kPa g	A系： 0.11 vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.11 vol%

\*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/16 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	28.5
2号機	循環冷却システム	運転中	27.5
3号機	循環冷却システム	運転中	26.6
4号機	循環冷却システム	運転中	31

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

- 7/17～7/19 4号機使用済燃料プール代替冷却系について、2次系のフラッシング作業を行うことから停止を予定。なお、停止はフラッシングの作業状況に応じて実施する(各日最大で約8時間の停止)。本作業に伴い、4号機使用済燃料プールの冷却が停止するが、7/16 16:00 現在の同プール水温は31であり、冷却系停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.334 /hで、停止中のプール水温上昇は各日最大停止で約3 と評価されることから、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上の問題はない。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	7/15 11:20～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	7/11 15:12～ 7/15 9:44 移送実施
		集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	7/15 10:53～ 移送実施中

- 7/16 13:00～ 5,6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5,6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5,6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエアータンクへ移送を開始。なお、本移送は8月下旬までの日中時間帯を行う予定。

#### < 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (7/16 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

\*フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備 (ALPS) の3系統 (A ~ C) のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験 (ホット試験) を開始。なお、6/15 に発生したバッチ処理タンクからの水漏れの対応のため、ホット試験を中断中。
- ・H25/6/13 9:49 ~ 多核種除去設備 (ALPS) の3系統 (A ~ C) のうちB系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験 (ホット試験) を開始。

#### < 5 . その他 >

- ・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5,6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/7/8 ~ 2号機TIP (移動式炉内計装系) 案内管の健全性確認を実施中。
- ・H25/7/9 10:25 ~ 1号機サプレッションチェンバ内残留水素の排出、およびサプレッションチェンバ内の水の放射線分解による影響を確認するため、サプレッションチェンバ内への窒素ガス封入を再開。
- ・H25/7/12 ~ 3号機原子炉建屋1階において、がれきなど障害物の撤去作業の事前調査として、バックボットによる建屋内の調査を開始。
- ・H25/7/16 7/10 および 7/11 に発生した、3号機原子炉建屋上部における、ガレキ撤去作業用の無人重機からの作動油漏えいについては、上部油圧ホース接続部の緩みによる油漏れであったことから当該接続部を増締めするとともに、当該接続部の緩み防止処置を実施。処置終了後に無人重機の動作確認を行い、異常が無いことを確認したことから使用を再開。

#### 【タービン建屋東側の地下水調査状況について】

- ・1 ~ 4号機タービン建屋東側に観測孔を設置し採取した地下水を分析したところ、1,2号機間の観測孔 No.1 において、トリチウムおよびストロンチウムが高い値で検出。今後も引き続き採取分析を行い、監視強化を実施。  
トリチウム:  $4.6 \times 10^5 \sim 5.0 \times 10^5$  Bq/L (採取日: 5/24, 5/31, 6/7)  
ストロンチウム  $90: 1 \times 10^3$  Bq/L (採取日: 5/24)
- ・7/8 に採取した地下水観測孔 No.1-1 の水について、トリチウムの分析を実施。7/12 過去最大値 (7/5 採取分: 600,000 Bq/L) よりも高い値 (630,000 Bq/L) を検出。
- ・地下水観測孔 1-3 (地下水観測孔 1 の西側) で 7/12 に採取した水について、トリチウム、ガンマ核種および全ベータの分析を実施。分析の結果、トリチウムについては、近傍にある地下水観測孔 1 の 7/8 採取分のデータと比較して低い放射能濃度であることを確認。また、ガンマ核種および全ベータについては、近傍にある地下水観測孔 1-2 (地下水観測孔 1 の南側) の 7/11 採取分のデータと比較して低い放射能濃度であることを確認。
- ・7/11 に採取した1 ~ 4号機取水口内北側海水および1・2号機取水口間海水 (表層・下層) の水について、トリチウムの分析を実施。分析の結果、前回 (7/9 採取) と比較して大きな変動はない。また、7/14 に採取した1 ~ 4号機取水口内北側海水および1・2号機取水口間海水 (表層・下層) の水について、ガンマ核種、全ベータの分析を実施。分析の結果、前回 (7/11 採取) と比較して大きな変動はない。
- ・7/15 に採取した3号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側) について、セシウム 134, 137, 全ベータが、前回よりも高い値 (セシウム 134: 350 Bq/L, セシウム 137: 770 Bq/L, 全ベータ: 1,000 Bq/L) がでているが、過去の値と比較して大きな変動はなく、引き続き、同箇所のデータや、他の調査地点における地下水等のデータを蓄積して評価していく。
- ・7/15 に採取した地下水観測孔 No.1-2 の水について、ろ過した水のガンマ核種の分析を実施した結果、これまでと同様の傾向が確認された。

**【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】**

**< 拡散防止対策 >**

7/13～16 地下貯水槽 No.1～3の漏えい検知孔内に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

地下貯水槽 No.1 のドレン孔内に漏えいした水を当該地下貯水槽内へ戻す処置を実施。

6/19～ 地下貯水槽 No.1検知孔水(北東側)の全ベータ放射能濃度の低下が緩やかであることから、地下貯水槽 No.1に淡水化装置(RO)処理水(全ベータ放射能濃度:約 $1 \times 10^1$ Bq/cm<sup>3</sup>)またはろ過水を移送し希釈する処置を実施(地下貯水槽 No.1内残水の全ベータ放射能濃度: $6.6 \times 10^4$  Bq/cm<sup>3</sup>)。

最新の希釈作業実績: 7/5 約 40m<sup>3</sup>のろ過水を注水。

6/27～ 地下貯水槽 No.2検知孔水(北東側)の全ベータ放射能濃度の低下が緩やかであることから、地下貯水槽 No.2にろ過水を移送し希釈する処置を実施。

最新の希釈作業実績: 7/13 約 20m<sup>3</sup>の淡水化装置(RO)処理水を注水。

7/16 地下貯水槽 No.2の淡水化装置(RO)処理水 約 60 m<sup>3</sup>を仮設タンクに移送。

**< サンプルング実績 >**

7/12～15 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14 箇所)、地下貯水槽 No.1～4,6の漏えい検知孔水(10 箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22 箇所)についてサンプルングを実施。分析結果については、前回の分析結果と比較して大きな変動はない。7/15 上記試料に加えて、海側観測孔 ～ についてサンプルングを実施。分析の結果、前回(7/8)実施したサンプルングの分析結果と比較して大きな変動はない。

**< その他 >**

7/13 地下貯水槽 No2においては、全ベータが検出された観測孔 No2-10・11・12 の外側に 2-14・15・16 を追加ボーリングして汚染範囲確認を行っていたが、汚染が限定的であることを確認できたことから、特定した汚染範囲内の土壌を除去し、充填材による埋め戻し工事を開始。

以上